

短期大学におけるブライダル教育手法の一考察

－ PBL を適用した実践型教育の提案－

小 山 理 子

A Consideration of a Bridal Education in a College

－ The Proposal of a PBL Approach to a Practiced Type Education －

Ayako KOYAMA

I はじめに

大競争時代に突入していると言われているブライダル業界において、ブライダルプランナーやブライダルコーディネータの役割がより重要となり、求められるスキルが高くなることが予測される。その背景には、新郎新婦の挙式に対する要望が高くなっていること、チャペル、バンケットなどハード面やコストでの差別化ではなく、接客での差別化が競争戦略となっていること、この業界でも口コミサイトや Facebook などの SNS の存在により、接客の評価にさらされていることなどの外部環境の変化がある。

このような外部環境の変化とともに、大学・短期大学のブライダル関連の教育課程やブライダル系の専門学校などの教育課程では、教育内容を見直し、ブライダル業界で求められる人材の育成の強化が必要となる。特に、ブライダルの専門知識に加えて、人間性、コミュニケーション能力、ホスピタリティマインドなど、接客に必要となるヒューマンスキルが高く求められている状況においては、既存の基礎知識習得を中心とした講義では限界がある。

そこで本稿では、ブライダル科目の教育手法に PBL の適用を提案する。具体的なテーマ設定を「海外挙式（ハワイ）のプロデュース」とし、その実現可能性を考察する。

II ブライダルコーディネータに求められるスキルと人材育成

1 ブライダルコーディネータに求められるスキル

本稿では、挙式、披露宴の内容を具体的にプランニングする人材のことを「ブライダルコーディネータ¹⁾」と称する。前述のように、ブライダルに対する顧客のニーズや価値観の多様化、社会環境の変化を受け、ブライダルコーディネータに求められる役割、能力は高くなり、職業としてエキスパート化しつつある。

ブライダルコーディネータには、ブライダルに関する専門知識に加え、「人生の一大イベントである結婚式という高額な商品を取り扱うにふさわしい人間性、ホスピタリティマインドを備えた人材の教育」^[1]が求められている。具体的な業界からのニーズを受け、大学や短期大学、専門学校の教育現場での人材育成の在り方を見直す必要がある。現状の人材育成の課題を抽出すると、①教育体系の整備と標準化、②ホスピタリティマインドなどの人間力の育成、に大別される。

2 人材育成の現状と課題

教育体系の整備と標準化に関しては、公益社団法人日本ブライダル文化振興協会（BIA）や社団法人日本ホテル協会、日本ウェディングプランナーネットワーク協会などによる資格試験が、業界や教育機関からブライダルの基礎知識を体系的に学ばせるひとつの指標に活用できると期待されている。特に、BIA が実施している「アシスタントブライダルコーディネーター検定（ABC 検定）」の全国受験者数は、平成 12 年度（初

回実施時)の143名から平成24年度(第12回)には3,233名と22.6倍にまで急激に上昇している。プライダル業界および大学や短期大学、専門学校の教育現場においても、ABC検定に向けて実践的な授業をもとに指導を行っており、本学でも、本年度より既存のプライダル系科目に加えABC検定の対策講座を新設している。プライダルに関連する知識を体系的に学び、2年間の知識の集大成を行うことを目的としている。

また、プライダルの接客・プランニング・コーディネートには、教育現場では模擬挙式や模擬結婚式などの実践教育を行うケースが多い。本学でも学生自らがプロデュースした模擬結婚式が行われ、先行研究ではその教育効果も報告されている[2][3]。本学以外の教育機関においても、インターンシップ、学生主体の模擬接客や模擬挙式など企画運営などの実体験を通じた学習など、理論と実践の学習プログラムが組み立てられている。

しかし、上記のような理論と実践を兼ね備えた教育カリキュラムであっても、業界からは、「資格取得が目的の教育内容になっている」「プライダルの仕事につくにあたって、本当に必要とされる教育内容が重視されていない」[1]などの問題点が指摘されている。つまり、2つ目の課題である人間力の育成がなかなか進んでいない。短期大学では、2年という短い在学期間において、知識と実践の教育にとどまらず、実際の顧客相手に接客能力、問題発見・課題解決能力などを身に付けさせる全人的教育を、いかに展開するかが新たな課題である。

Ⅲ 新たな教育手法の提案

1 PBLの適用の可能性について

上記の問題意識にそって、プライダル科目に実践型教育としてPBLの適用の検討を試みた。PBLは、専門教育のための方法論であり、看護学・医学の分野で生まれた[4]。PBLの学びの特徴は、学生は、専門的分野における具体的な課題を解決し、そのプロセスを通じて、基礎的専門知識を総合化して活用することを学ぶとともに、それぞれの基礎的専門知識への理解を深めることにある。その教育目的は、対象への全人格的投与と、それによって形成される全人格的發展である。

PBLの定義は「一定期間内に一定の目標を実現するために、自律的・主体的に学生が自ら発見した課題に取り組み、それを解決しようとチームで協働して取り組んでいく、創造的・社会的な学び」[5]であり、専門教育だけでなく教養教育にもPBLが適用され、その教育効果が報告されている。

PBLの学習ステップは次の6ステップで構成され、学習ステップのプロセスとともに学生が自発的に学ぶようになることにも特徴がある。

- (1) まず問題に出会う
- (2) どうしたら解決できるかを論理的に考える
- (3) 相互に話し合い何を調べるかを明らかにする
- (4) 自主的に学習する
- (5) 新たに獲得した知識を問題に適用する
- (6) 学習したことを要約する

プライダル系科目において、基礎知識習得の講義および模擬挙式などの実践型授業の補完を目的とした場合、PBLの次の2点の特徴が功を奏すると思われる。1点目が、問題解決の課題は実社会の曖昧な課題であること、2点目は、その解決の過程でそれに必要な専門知識および各種スキルを同時に教育することである。具体的にPBLを実践する場合、模擬形式の演習には限界がある。実社会に出て、新郎新婦の挙式の要望をヒアリング・分析し、要望に応える挙式プランを企画立案し、その挙式を開催するしかないのではないだろうか。その場合、PBLを適用した学習ステップは以下のようなイメージとなる。(図1参照)

- (1) 新郎新婦の挙式の要望をヒアリングする
- (2) 要望に応じた情報収集を行い討論する
- (3) グループで企画を検討する
- (4) グループで役割分担をし、自主的に学習する
- (5) グループで企画を作成する
- (6) 新郎新婦へ提案し、挙式を開催する

PBLではテーマの設定が大きなポイントとなる。学生にとってふさわしいテーマかどうか、学習環境を整備できるかどうかを慎重に検討する必要がある。そこで、今回は具体的なテーマ設定を「海外挙式(ハワイ)のプロデュース」とし、以降で、その実現可能性の考察を試みた。

	PBLの学習プロセス		ブライダル科目での授業の進め方
ステップ1	まず問題に出会う➔	新郎新婦の要望をヒアリング
	↓		↓
ステップ2	どうしたら解決できるかを論理的に考える➔	情報収集、討論
	↓		↓
ステップ3	相互に話し合い、何を調べるかを明らかにする➔	グループで企画の検討
	↓		↓
ステップ4	自主的に学習する➔	グループで役割分担、自主学習
	↓		↓
ステップ5	新たに獲得した知識を問題に適用する➔	グループで企画作成
	↓		↓
ステップ6	学習したことを要約する➔	新郎新婦へ提案、挙式開催

図1 ブライダル教育にPBLを適用した場合の学習ステップのイメージ

2 ハワイでの挙式のニーズ

まず、「ハワイでの挙式」というテーマが、学生の学習にとって実社会の問題を感じ取れるテーマとなり得るか、ブライダル業界の傾向から検討する。厚生労働省の「人口動態統計（確定数）」によると、平成23年度の婚姻届組数は66万1895組で、前年比94%に減少している。しかしながら、海外でのリゾートウェディングは依然として人気が高い。ゼクシィ結婚トレンド調査2012²⁾によると、海外挙式の挙式件数のうち、ハワイは47.1%と、その人気は不動である。また、同調査では、海外挙式においては、この不況下にあっても結婚式消費は高い水準を保っていることが報告されている。円高による一時的な人気ではなく、業界からもハワイ人気は継続すると見られている。海外挙式実施エリアによりその選択理由は異なることもあるが、「列席者の満足感」「海外ならではの特別感」を重視するカップルの指示を得ていることが背景にある。そのため、業界のトレンドや顧客のニーズを学習するためにも、学習テーマに「ハワイでの挙式」を選ぶことは教育内容として必要なことだと思われる。

3 ハワイの挙式の特徴

さらに、著者はハワイでの挙式のプロデュースの実現可能性を探るため、2012年8月29日～9月5日、現地で視察を行った。その結果、ハワイでの挙式は、特に以下の3つ要素から、授業テーマとして取り上げやすいと感じた。

1点目が、ハワイの挙式内容のシンプルさである。式次第の一例を表1に示す。慣例や宗教にとらわれることなく、自由な挙式の展開が可能である。

ハワイ島 ヒルトンワイコロアチャペル	
Hale Aloha Wedding Pavilion, Hilton Waikoloa Village	
結婚式 次第	
Wedding Program	
奏楽	Prelude
入場	Processional
開式のあいさつ	Aloha-Welcome
祈り	Prayer
誓約	Declaration of Intention
誓いの言葉	Wedding vows
指輪交換	Exchange of Wedding Rings
祝福の祈り	Wedding Prayer
ウエディングソング	Wedding Song
誓いのキス	Traditional Kiss
祝寿	Benediction
結婚宣言	Pronouncement
退場	Recessional
	*
結婚証明書サイン	Sing Marriage Certificate
記念撮影	Photo session
	*
シャンペン乾杯	Champagne Toast
	*

表1 ハワイ挙式の式次第 一例

2点目が、衣裳のシンプルさである。もちろん、ウエディングドレス、タキシード姿での挙式も多いが、ハワイではホロク（ハワイアンスタイルドレス、図6参照）での挙式も正装の挙式となる。ゲストもアロハシャツが正装とされる。

3点目が、ハワイ挙式事情の変化である。今年度に入り、バンケット併設型の会場の新設など、日本のブライダル企業の会場新設やリニューアルが相次いでいる。さらに、ガーデンや草原でのウエディングシーン、親世代との家族旅行スタイルなど、新しいハワイウエディングのスタイル提案が行われつつあり、様々な挙式に対応が可能になりつつある。

このような理由から、ハワイ挙式のプロデュースは学生の自由な発想を具現化しやすいと言える。もともとハワイは、チャペル、海岸、公園など、どのような

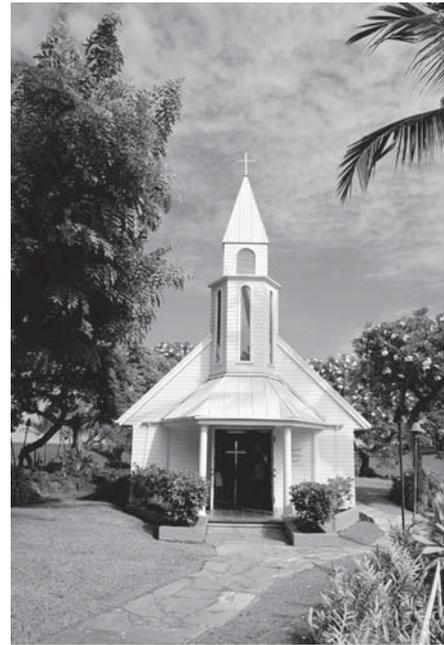


図2 ハワイでの挙式風景チャペル風景
(撮影場所：シェラトン・コナ・リゾート&スパ・アット・ケアウホウ・ベイ)



図3 ハワイでの挙式風景 新婦入場
(撮影場所：シェラトン・コナ・リゾート&スパ・アット・ケアウホウ・ベイ)

場所でも挙式が行いやすいロケーションである。著者も、オアフ島で現地視察中、何組もの新郎新婦に何の違和感もなく出会った。昼間の時間帯には、スイーツで人気の有名店「マツモト・シェーブアイス」で挙式後の新郎新婦に出会った。夕方は、アラモアナ・ビー



図4 ハワイでの挙式風景 誓約
(撮影場所：シェラトン・コナ・リゾート&
スパ・アット・ケアウホウ・ベイ)



図5 ハワイでの挙式風景 結婚証明書サイン
(撮影場所：シェラトン・コナ・リゾート&
スパ・アット・ケアウホウ・ベイ)



図6 ハワイアンスタイルドレス
(撮影協力：ワタベウェディング株式会社
ハワイ支社コナ店)



図7 マウイ島「アラモアナ・ビーチ・パーク」
観光客や現地の人々に混じりサンセットで
撮影をする新郎新婦の様子

チ・パークで、4組の新郎新婦の撮影シーン（図7参照）を目の当たりにした。ここからもハワイ挙式の組数の多さはもちろんのこと、どこでも挙式が成立し、新郎新婦に出会った人たちをも祝福ムードにしてしまう雰囲気があることが感じ取れた。

また、授業として取り組むにあたりネックとなるのが、会場代と衣裳代などのコストである。学習の一環としてホロクの制作を行い、場所も公園、ビーチを選べば、それもある程度は解決できると思われる。

4 ハワイ挙式におけるブライダルコーディネータの役割

また、著者は、ハワイ挙式におけるブライダルコーディネータの役割と必要となるスキルを探るため、ハワイで挙式したSさんに聞き取り調査を行った。Sさんは、現在30代女性、2011年10月にハワイ・オア

フ島「ホヌカイヤニ・コオリナ・プレイス・オブ・ウェリナ」で挙式とパーティを行った。

挙式については満足しているものの、担当したブライダルコーディネータには問題点を指摘している。その問題点は、「信頼性」「気配り」「要望をくみ取る能力」などの人間力に関する要素がほとんどであった。専門知識、業務知識、経験などは、あまりSさんの記憶には残っていない。以下にSさんのコメントを記載する。

「挙式は、期待した通りのサンセットの景色を臨みながらだったので、本当に満足でした。景色、食事、何もかもが日本では味わえないハワイらしさを満喫できた挙式で、私たち夫婦も、参加してくれた親族に友人、ゲスト全員に満足してもらえたと思います。翌日からは新婚旅行も兼ねての観光だったのですが、日本で挙式して慌てて新婚旅行に出発する、といったのではなく、式が終わった後から翌日にかけてもゆったり出来たので、新婚旅行も兼ねて行ってよかったなと思いました。

担当のブライダルコーディネータさんは、残念な事に、痒い所に手が届かない人でした。私が質問した事には丁寧に答えてくれるものの、一歩前を行ってこないというか。ハワイの式場を事前に直接見る事が出来ない私にとって、何を聞いたらいいかさえよく分からないものです。そこを、『もしかして、こういう事をしたんじゃないですか？それでしたら・・・』という風に、一歩先を行って色々提案してほしかったんですが、それがなかったです。

ブライダルコーディネータさんには、こちらの言っていることだけをこなすのではなくて、そこからどう盛り上げていくかを提案できる柔軟性や応用力が必要だと思います。それが、いかに親身になれるかに繋がって、客との信頼関係が生まれるのではないのでしょうか。きっと、毎日何人もの花嫁を相手に提案する仕事なので、必要な業務をこなすことは出来ても、一人一人親身になるっていうのが段々難しくなるのではと思います。でも、そこを親身になることで、お客さんは『他の人にはこういうことは言っていないだろうな、私の要望を聞いて自分のためだけに考えてくれているのだろうな』と、嬉しくなると思います。

ブライダルコーディネータは特に、人の幸せのお手

伝いだから、そういった『人好き』であることが大事なんじゃないでしょうか。」

Sさんの感想から、挙式前に現地を自分たちの目で確認することができない海外挙式においては、新郎新婦は挙式に対して不安を少なからず抱えていることが分かる。そのため、ブライダルコーディネータには、新郎新婦の悩みや不安をサポートするカウンセラーとしての役割が望まれるのであろう。海外挙式をコーディネートする場合は、より一層、提案力や傾聴力、ホスピタリティ、気配りといった人間力が要求される。海外挙式希望者への接客は、ブライダルコーディネータとして人間力を磨く訓練になると感じる。

また、本プロジェクトを国内で実践した場合、ハワイと日本との距離的な隔たりのため、情報収集などの面において、学習環境が整備しにくいのではないかという心配はあった。しかし、コーディネータの業務は日本で行われている。今回、著者は、プランニング会社A社のハワイの支店を見学した。A社の場合、現地の常駐スタッフは2名である。2名の主な業務内容は、会場手配、衣裳手配、牧師、演奏者、カメラマンなどの現地スタッフ手配、挙式前日のカップルとの打ち合わせ、挙式当日の立会いである。そこまでに至る打ち合わせは、全て、日本のコーディネータの役割であった。そのため、学生が海外挙式のプランニングを行う場合も、日本での学習が十分可能であると判断した。また、情報収集や発信には、HP、メール、Facebookの利用は必要不可欠である。本プロジェクトを通じて、学生は必然的に情報リテラシーやICTの利活用をも学ぶことが期待できる。

IV 今後の課題

今回は、ブライダル科目における実践教育の一案として「海外挙式（ハワイ）のプロデュース」をテーマとするPBLの提案を行い、その実現可能性の検証にとどまった。PBLを実践する際に、テーマ設定以外に重要なことが、カリキュラムであると言われている。今後の課題は、プロジェクトの実践に向けて、カリキュラムを作成することである。

また、上記PBLを行うためには、ブライダルの知識以外に、ビジネス、ファッション、観光、フード、

コミュニケーション、語学などの知識が必要となる。これらは全て、本学のライフデザイン学科の科目で学習が可能である。さらに海外研修制度の一つとして、ハワイ研修も行われており、ハワイの文化、現代事情も学習することが可能である。ブライダルの知識習得のために単独で展開するのではなく、他のコースの講義と連動して展開させることが理想であり、カリキュラムの検討とともに、他の科目との連携方法の検討も必要である。

さらに、PBLの中でも、特に産学連携型PBLは、企業から最新の研究テーマの提供と人的協力を得ながら、業界知識の習得、新規サービスの立案の一連のプロセスを体験することが可能である。そのため、ホテル、式場、ブライダルの企画会社などブライダル業界との連携により進めることが理想である。連携先の企業の開拓も今後の課題である。

注

- 1) ブライダルコーディネータの呼び方は、「ウエディングプランナー」、「ウエディングプロデューサー」など、企業によって異なる。ブライダル業界での公的組織である公益社団法人日本ブライダル文化振興協会（BIA）では、ブライダルの接客業務を担当する人材を、「ブライダルコーディネータ」と称している。その理由は、この職業が「企業とお客様の間に立って、多くのパートナー専門職と情報の共有コーディネートし、知識と経験を活かし、多様化するお客様のニーズに応え、感動を創造する総合調整能力を有する仕事」として捉えているためである。本稿でもBIAの定義を尊重した。
- 2) ゼクシィ結婚トレンド調査2012
【調査対象】 2011年1月～2011年12月に結婚をした首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）、東海（愛知・岐阜・三重）、関西（大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山）の『ゼクシィ』読者のうち、海外で挙式を行なった人の中から地域ごとにランダムサンプリングし、調査票を郵送。
【集計サンプル数】 計426人〔首都圏：220人、東海：74人、関西：132人〕

参考文献

- 1) 財団法人日本ホテル教育センター；「日本におけるブライダル実務者教育の研究と考察」（2009）
- 2) 知念葉子，一岡里栄；短期大学におけるブライダル分野での実践教育の取り組み，京都光華女子大学短期大学部紀要，p81-p90（2011）
- 3) 一岡里栄，知念葉子；ブライダルマーケットの現状報告と大学教育における人材育成に関する課題，京都光華女子大学短期大学部紀要，p189-p200（2009）
- 4) B. マジェンダ，竹尾恵子；PBLのすすめ—教えられる学習から自ら解決する学習へ—，学習研究社（2007）
- 5) 同志社大学PBL推進支援センター；PBL導入のための手引き
- 6) 厚生労働省；平成23年人口動態統計
- 7) ゼクシィ（リクルート発行）；結婚海外ウエディング調査2012
- 8) ブライダル産業新聞社；ブライダル産業新聞，第822号1面-2面（2012）
- 9) 望月広海；ブライダルビジネス戦略，同友館（1997）
- 10) 堂上昌幸；ウエディング・プランナーという仕事，富士美術印刷（2005）
- 11) 増田榮美；カスタマー傾向から読み取る今後のブライダルマーケティング，上田安子短期大学紀要（2008）
- 12) 田澤昌枝，境真一；挙式・披露宴におけるブライダルビジネスの現状と戦略，東京家政学院大学紀要第44号（2004）
- 13) 公益社団法人日本ブライダル文化振興協会；アシスタント・ブライダル・コーディネーター（ABC検定テキスト）（2011）

